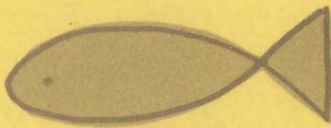


Asagaya Dream



A Collection of Essays

ご近所
パラダイス

Asagaya Dream



ねじめ正一

Shoichi Nejime

ねじめ正一 Shōichi Nejime

昭和23年、東京・杉並区高円寺に生まれる。青山学院大学経済学部中退。昭和56年、処女詩集『ふ』で第31回H氏賞受賞。ねじめ民芸店を経営する一方で、詩人・小説家・エッセイストとして活躍を続ける。主な詩集に、『脳膜メンマ』『いきなり愛の実況放送』、エッセーに『ねじめの歯ざしり』などがある。小説では、少年時代を過ごした高円寺を舞台とする『高円寺純情商店街』で第101回直木賞を受賞。最近作に『本日開店』がある。

近所 パラダイス

Asagaya Dream



1990(平成2年)12月29日 第1刷

著者……………ねじめ正一

© Shōichi Nejime, 1990

編集人……………篠原義近

発行人……………杉林 昇

発行所……………読売新聞社

〒100-55 東京都千代田区大手町1-7-1

〒530 大阪市北区野崎町8-10

〒802 北九州市小倉北区明和町1-11

〒460 名古屋市中区栄1-17-6

印刷……………大日本印刷株式会社

製本……………ナショナル製本協同組合

定価はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本はお取り換え致します。

ISBN4-643-90115-2 C0095 Printed in Japan

ご近所パラダイス
目次

- ✦—— 昨今レニアイ事情—— 9
- ✦—— ビートたけしの強さの理由—— 14
- ✦—— 二人の幼女殺しとホッチャリ丸顔—— 20
- ✦—— 「長嶋茂雄様」が読んだセクシー中尾の変わり身—— 26
- ✦—— 「私の銅像をお宅に置かせてもらえませんか？」—— 32
- ✦—— 松田優作のもつた、肉休—— 38
- ✦—— 「小説書くなら評論家と付き合おうな」—— 44
- ✦—— 恨みを嗜らすメント—— 49
- ✦—— 「さわやかシェイプ」のエロティシズム—— 54
- ✦—— 喫茶店トイレの音と臭い(講演調へ)—— 61
- ✦—— つらい講演、楽しい講演—— 67
- ✦—— 物書きの亭主を持った喫茶店ママの純情—— 72

- ✦ やつぱりたけしは天才である——79
- ✦ 中央線文化は井伏鱒二、先生とラーメン戦争——84
- ✦ 私は商店街おこしの小説家ではありません——89
- ✦ 先生と弟子の深い深い関係——95
- ✦ 中年男、思わず涙のオススメ映画——101
- ✦ 昼寝をしている私の直木賞百万円——106
- ✦ 元木クンには「純情」が良く似合う——112
- ✦ チャーミングな老人になりたい——117
- ✦ 詩はアンバランスの筋肉 小説はバランスの筋肉だ——122
- ✦ 通天閣界限はなんだつておもしろい——127
- ✦ ヨレヨレ香港旅行のトドメ——133
- ✦ ギャルタリアンの恐怖で夜も眠れない——140

- ✦ 熱血デブ・カメラマンのゲン君 ————— 146
- ✦ 豆腐から愛があふれる ————— 151
- ✦ ご先祖・平清盛譲りねじめ家の性格 ————— 157
- ✦ 赤毛のロッカー・アルバイトA君の純情話 ————— 163
- ✦ 手に汗を握りひとりよがりの人妻と手を切る! ————— 169
- ✦ ボクを夢中にさせた紀子さまと川嶋教授 ————— 176
- ✦ 子持ち昆布の夢は怒りに変わって…… ————— 181
- ✦ 改めて知るフンディ・パースの愛情の大きさ ————— 187
- ✦ 桑田に美意識が芽生えた理由 ————— 192
- ✦ 「商いは牛のよだれ」で隠岐島へ、さっさと問題へす ————— 198
- ✦ お尻の穴と星の輝きについての一考察 ————— 204
- ✦ 校門圧死事件で「演じる」ことのない人を考えさせられた ————— 210

- ✦ ― ボクのアダ名を知ってるかい? ― 215
- ✦ ― ついに買ったぞ、憧れの50ccバイク ― 222
- ✦ ― 深夜50ccバイクを走らせたら看板の本当の使命が分かった ― 228
- ✦ ― 祝・巨人軍優勝、私が選ぶMVP ― 234
- ✦ ― 石橋ボクシングジムの懐かしい人たち ― 239
- ✦ ― 藤田野球の極意は草野球にあり ― 244
- ✦ ― ねじめ正一からの一方的な「茂クン」への手紙 ― 249
- ✦ ― シロウト監督のコワさ、プロ監督のコワさ ― 254
- ✦ ― 巨人軍よ、マスコットに東尾そっくり人形を ― 260

川上成夫	………	装
安西水丸	………	装
こやまたかこ	………	造
前川しんすけ	………	本文
		画

ご近所
バラダイス

昨今レンアイ事情

「ねじめ先生。アタシ、じつは今Kクンと付き合ってるんです」

久しぶりに会ったA子が、上目遣いに私を見て照れ臭そうに笑った。

A子は以前私が教えていたカルチャーセンターの若い生徒である。二十五歳で、大きい会社のOLをしているがなかなか良い文章を書く子で、私とは教室をやめてからもときどき会っては小説の話をしたり、身の上相談を聞いたりする間柄だ。

「へえ。Kクンと」

私はびっくりしてA子の顔を見た。ついこの間まで、A子は十五歳も年上で二人の子持ちの会社の上司とレンアイのまっさいちゆうで、「ちょっと考えたほうがいいんじゃない」という私の忠告ものともせず、「結婚なんかどうでもいいんです。このまま愛し合っていられれば」などとタンカを切って愛人街道をまっしぐらに突っ走っていたのであった。

そのA子が、カルチャーセンターのクラスメイトで以前からA子に熱を上げていたKクンと付き合っているという。「ああいうのって何だか子供っぽくてめんどくさい」と言っていた、そのKクンと付き合っているというのである。

「でも、どうしてまたKクンと？ あんなに面倒くさがってたじゃない」と言う私に、A子はうれしそうに話し始めた。

「花なんです」

「花？」

「ええ。私が風邪で寝込んでいたとき、Kクンが大きな花束を持ってアパートに来てくれたんです。それも真夜中」

「へえ。あいつ、そんなキザな真似をしたんだ」

「キザじゃないんです。Kクンたら、アパートまで来たのにドアの前に花を置いてそのまま帰っちゃったんです。朝起きて、新聞を取ろうとしたら玄関に花が置いてあって。カードもついてないから、アタシはじめは誰がくれたのかわからなかったくらい」

「ふうん」

「で、アタシじんときちやって、風邪が直るとすぐ彼氏と別れたんです。好きな人ができたからって。それからKクンに電話して、ありがとうって言って」

「それで付き合いはじめたってわけか」

「先生。こういうのって純情ですよ。純愛ですよ。純愛って、やっぱりいいですね」

ついこの間までは愛人がサイコーなんて言ってたくせに何が純愛だよ、と口まで出かかったが、いやいや『高円寺純情商店街』を書いた張本人の私がそんなことを言っただけはいけないうと「よかったよかった」でお茶を濁してそのままA子と別れたものの、純愛ブームもとうとうここまで来たかと考え込んでしまった。

そうなのである。今や不倫を押しつけて、いちばんトレンドイな愛は純愛なのである。

不倫ブームのおかげでオジンはギャル化しギャルはオジン化し、そうやって双方が歩み寄った結果、ある日気がついてみたらフリンなんてちっとも刺激的じゃなくなっていた。「大人の男」とお付き合いしているつもりが、その大人の男がいつの間にかDCブランドの背広を着てハナコさんよりレストラン情報に詳しくなっていたり、「ピチピチギャル」を愛人に行っているつもりが、そのギャルが薬局でリゲインを立ち飲みしていたりする。ガクゼン!!というわけだ。こうなったら不倫も終りである。オジンは悔い改めて「マドンナの夫」へ走り、ギャルは目覚めて純愛に走る。それが昨今のレンアイ事情なのである。

そして、そんな純愛ブームの象徴ともいえる出来事が、身分を越えて四年間の純愛を貫いたかのロイヤル・カップルなのだ。

まかり間違えば「まだ学生のくせに結婚なんて甘ったれるな」と言われかねない若い二人の婚約に世間がこれほど盛り上ったウラには、かくも深い社会心理学的な背景があった——と

私はニラんでいるのである。

もつともこのカップルの純愛人気、かなりの部分紀子さんのほうにおんぶしているようだ。平成元年生まれの女の子に「紀子」という名前がどっと増えること間違いないのキコちゃんフイーバーはまったく大したもののである。かくいう私もテレビで紀子さんのジョギング姿を見て以来、すっかり彼女のファンになってしまった。

太るのを気にしているなどと週刊誌に出ていたが、あのジョギングぶりはスタイルをよくしようなどというさもしい根性から出たものではなく、まさしく正しく「健康のために運動をしている」ジョギングぶりである。

痩せたい女性、キレイになりたい女性は、痩せる努力、キレイになる努力をしているところを他人に見られるのをいちばんイヤがる。痩せた結果、キレイになった結果だけを見てもらいたいのである。ところが紀子さんは、テレビカメラの前で胸も堂々と汗を拭き拭きジョギングをしているのである。どこの世界に、テレビで痩せる努力を映されて平気な女性がいるものか。

こういう女性だったからこそ、紀子さんは純愛のヒロインに、それも幸福なヒロインになることができた。花束の一つや二つで「純愛！」と叫ぶそんじよそこれらのギャルのお手輕純愛とは質が違う格が違う、ウルトラ純愛を成就することができた。

しかし、とシモジモである私は考えてしまうのである。紀子さんはさておき、礼宮さまが純

愛を成就できたのはそうとう運がよかったと思うべきではないのか。

身長が高く、脚が長くてハンサムなこの次男坊殿下に胸キュンになったギヤルは、学習院の中でもかなり多かったはずである。胸キュンになりつつ「身分も違うし、どうせアタシなんか」とハナからあきらめてアタックしないギヤルが圧倒的多数を占めたことは間違いないが、ダメモトでじつと見つめたり仲間うちの集まりに参加して何とか隣りに座ろうと心ひそかに必死になったギヤルだって一人や二人はいたに違いない。

殿下にしたところがもれうけたまわれれば、なかなかやさしいお人柄とか。紀子さんが現われる前にも、いやもしかしたら現われたあとだって、そういうギヤルと（二人きりにはならなかっただろうけど）お茶を飲んだり、おしゃべりの相手をしたことぐらいはありそうである。もちろんけつして礼宮さまの愛の真心を疑うわけではないが、こと純愛に関しては男前というのはどうも分が悪い。

そこへ行くと、兄の浩宮さまは失礼ながら当世風とは言いがたい皇族顔といい、やや小柄な身長といい、まさに純愛にぴったりのお方である。こういう浩宮さまがレンアイをなさったら、失恋しようが恋が成就しようがこれはもう純愛になるしかない。

純愛ブームが去らないうちに礼宮キコちゃんカップルもブツ飛ぶド純愛を披露すること、今イチ地味な皇太子にとっていちばんいいと思うのだが、さてどんなものだろうか。

ビートたけしの強さの理由

前から大ファンでぜひ一度会ってみたかったビートたけしに、念願叶って会うことができた。たけしが司会するトーク番組「たけしのここだけの話」にゲストとして呼ばれたのだ。

たけしのことだから、私のことを紹介するのでもまともな言い方はしないで違いないと警戒していたら、案の定

「今日のゲストは第一〇一回直木賞を受賞した宮崎勤サンです！」

これでスタジオは大爆笑だ。

まさか今日日本でいちばん有名なアノ人の名前を出されるなんて予想もしていなかったこちらとしては、とっさに何と答えていいのかわからず、頭の中がグチャグチャになってきて、以前のようにサングラスをかけてくればよかったとか、素通しのメガネでも黒ブチにすればよかったとか、髪型ももう少しデイトップで塗りがためてオールバックにしてくればよかったとか、こ